

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 寿山 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

- (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

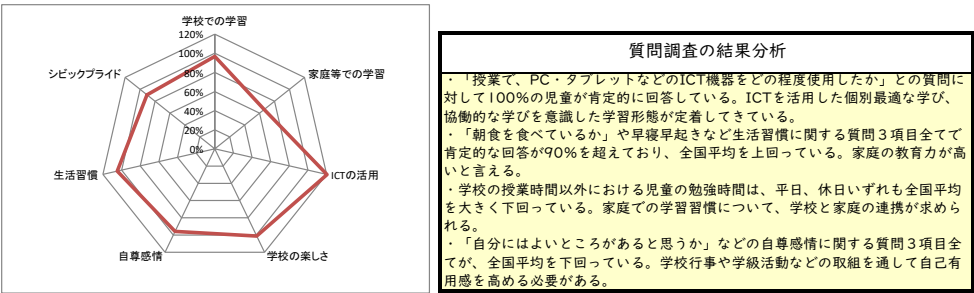
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

- (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	知識及び技能の「言葉の特徴や使い方」、思考・判断・表現の「読むこと」で全国平均を上回っている。思考・判断・表現の「話すこと・聞くこと」「書くこと」で全国平均を下回っている。	全国平均正答率との比較
			下回っている
	よくできた問題	人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかをみる問題。	
	努力が必要な問題	目的や意図に応じて日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができるかをみる問題。	

算数	全体的な傾向や特徴など	「数と計算」領域の短答形式の問題は全国平均を上回っている。「数と計算」領域の選択形式や記述形式の問題、「変化と関係」領域、「図形」領域で全国平均を下回っている。「データの活用」領域で全国平均を大きく下回っている。	全国平均正答率との比較
			下回っている
	よくできた問題	除数が小数である場合の除法の計算をすることができるかをみる問題。	
	努力が必要な問題	道のりが等しい場合の速さの速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかをみる問題。折れ線グラフから数値を読み取る問題。数値を読み取り、式にする問題。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

- ① 教科に関する取組
- ・国語科では、自分の考えを書き表す際に、ICTの活用を進める。

・算数科では、データを読み取り捉えたことを伝え合う活動を設定する。
- ② 家庭生活習慣等に関する取組
- ・家庭学習の量や内容について、児童に自己選択する機会を設定する。

・家庭学習や家庭での過ごし方について、家庭への協力の呼びかけや啓発を行う。